

お知らせ

Information

令和5年度

京都第一赤十字病院 病診連携懇話会

日程 10月5日(木)

会場 ハイアットリージェンシー京都

※詳細は後日お知らせいたします。



京都第一赤十字病院

日本赤十字社

人間を救うのは、人間だ。Our world.Your move.

絆

泉山長老
俊朝

京都第一日赤だより

き す な

人道と奉仕の赤十字精神に基づき、
患者さまにとって安心できる
適切な医療を行ないます。

夏号

2023年8月発行
vol.88

Contents

- 就任のご挨拶 2,3
- ベストドクター選出 4
- 完全予約制のご案内 5
- お仕事紹介 リハビリテーション科 6
- 看護師紹介 7
- 病診連携懇話会開催予定のご案内 8

いよいよCOVID-19の感染症状の扱いが2類相当から5類に変更されました。必ずしも完全なパンデミックの鎮静化は意味しないものの、「季節性インフルエンザ並み」になったことを喜ばない人はいないでしょう。そんな中でわれわれは院内でも新しい取り組みを始めています。その一つ目は「広報改革」であり、もう一つが「医療DX推進」です。「広報改革」は、従来の「受け身で目立たない」を良しとした病院広報から「積極的にアピールする」広報活動への転換を目指します。SNSやホームページなどIT媒体を活用して、病院紹介動画や患者さん向けのいろいろな案内・指導動画などの作成をしていく計画です。もちろん、そのために個人情報

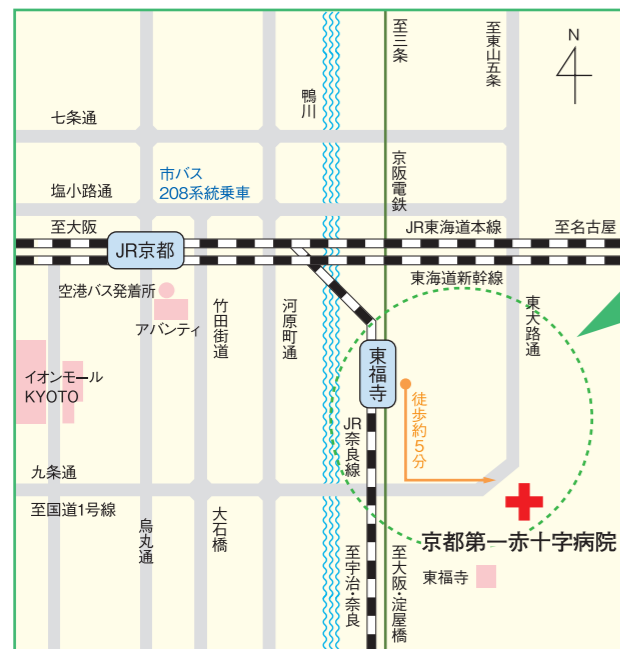
やプライバシーへの配慮を審査するプロセスなども充実させていきます。もう一つの「医療DX推進」は、世間で(良きにつけ悪きにつけ)話題のマイナンバーカード活用(保険証確認のみでなく、将来の電子処方箋や診療記録の個人管理など)ですが、それを進めていくとともに、独自に現在「京アプリ」という電子診察券を準備中で、この夏には本格運用を計画しています。これは、受付や料金計算・精算にかかる時間短縮をまずやっていきますが、将来はさらに便利な機能を加えていきたいと考えています。

「ポストコロナの京一」は、いろいろと面白いことをやりますので、乞うご期待!

副院長 福田 互

Access to Japanese Red Cross Kyoto Daiichi Hospital

当院へのアクセス



電車をご利用の場合

JR奈良線、京阪電鉄…「東福寺」駅下車、徒歩5分

バスをご利用の場合

市バス202、207、208系統「東福寺」バス停で下車

車をご利用の場合

【奈良、大阪方面から】… 京都南IC出口、国道1号線を北へ約2.5キロ京阪国道口を東(右折)へ、九条通りを約2.5キロ

【山科、大津方面から】… 国道1号線を西進、東山五条交差点を南(左折)へ、東大路通りを約2キロ

【京都駅付近から】… 竹田街道を南へ約500メートル、大石橋交差点を東(左折)へ九条通りを約500メートル

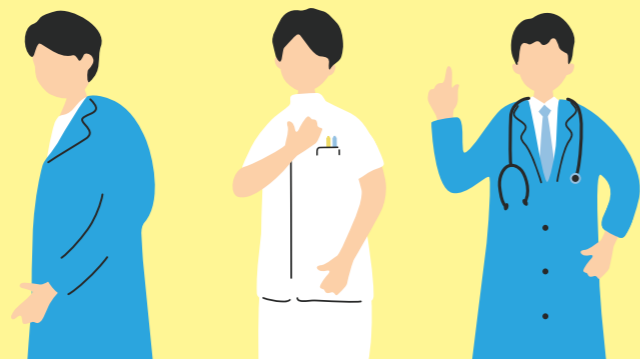
京都第一赤十字病院

京都市東山区本町15-749 TEL.075-561-1121

地域医療連携室 [直通]TEL.075-533-1280
FAX.075-533-1282

Assumption of office greetings

就任の ご挨拶



Taku Kato

greeting 01

心臓も足も健やかに！

2023年度から赴任しました循環器内科の加藤 拓と申します。私は2004年に京都府立医科大学を卒業し、その後は近江八幡市立総合医療センター・京都府立医科大学附属病院・京都中部総合医療センター・洛和会音羽病院で循環器診療にあたってきました。したがって医師20年目にして初の日赤病院勤務ということになりました。循環器診療一般、特に急性期治療、カテーテル血管内治療を専門としています。

なかでも私が重点的に取り組んできたのは“あし”の動脈閉塞や重症虚血肢の治療です。足は第二の心臓と言われることもありますが、

足を健康に保つこと、歩ける身体を維持すること、あるいは痛みから解放されることがその患者さんの人生を変えるはず、と信じて治療に取り組んでいます。また、あしの血管病治療は血管だけの治療では成立せず、さまざまな職種・診療科にまたがるチーム医療 (Multidisciplinary team treatment) が重要であると言われています。京都第一赤十字病院でも、よりよいチーム医療提供に向けて体制を整えて参ります。みなさまの暖かいご支援を頂ければ幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

循環器内科／副部長 加藤 拓



最近ハマっていること

“歩数チェック”

人に歩け歩けと言う以上は、と思ってせわしなく歩き回っては歩数をチェックしています。

Masaki Yamasaki

greeting 02

地域医療に貢献する集中治療部を目指して

この度、当院の集中治療部に副部長として就任いたしました、山崎正記と申します。

私は2004年に京都府立医科大学を卒業、沖縄県立中部病院で初期研修を行い、その後9年間当院で麻酔や集中治療に従事しておりました。一旦研鑽のため京都府立医科大学附属病院の集中治療室で8年間過ごしましたが、今回縁あって、再び当院で診療に携わる機会をいただきました。

当院は、京都府でも有数の救急病院であり、また様々な手術が行える急性期総合病院です。そのため、集中治療室には重篤な救急患者様が

ら高侵襲で規模の大きい手術後の患者様まで、様々な方がおられます。集中治療を専門としている私自身、非常にやりがいのある挑戦的な環境であると考えています。

集中治療を必要とする患者様やそのご家族様、そして地域の医療に従事される医療スタッフの皆様から安心して任せていただけるような、適切かつ効果的な治療が提供できる集中治療部門を目指し、日々努力して参ります。今後とも、何卒よろしく願い申し上げます。

集中治療部／副部長 山崎 正記



長らくはまっていること

西表島でダイビング

何回行っても飽きません。通い詰めるのにご協力お願いします。

Yuichi Furuno

greeting 03

相談しやすい脳外科医

今年7月に京都第一赤十字病院、脳神経外科に着任した古野優一です。昭和52年生まれで大阪府泉大津市出身、大阪府立三国丘高校と京都府立医科大学を卒業しました。これまで京都市内で働くことが多かったのですが(専攻医で当院にも1年いました)その他青森県や福島県で働いたこともあり、この6年間は神戸市のJCHO神戸中央病院で働いてきました。初期は大学病院の在籍が長く、後頭蓋窩腫瘍の手術や経鼻下垂体手術、三叉神経痛・顔面けいれんの手術など市中病院では比較的稀な手術にも多く携わり今も積極的に行なっています。またこの6年間神戸では

脳卒中診療に主軸を置いて手術だけでなくカテーテル治療、内視鏡を用いた脳出血の手術も多く行なってきました。このように幅広く診療できることが自分の強みであり、今後も京都第一赤十字病院でそれを生かしていきたいと考えております。地域医療を担う先生方が相談しやすい脳外科医として、これからも患者さんの利益と安全性を最優先に考えた診療を心がけていきたいと思っています。

脳神経外科／副部長 古野 優一



専門分野

脳腫瘍、脳血管障害、下垂体疾患、三叉神経痛・顔面けいれんなどの手術を得意としています。

【ベスト】 【ドクターズ】
Best Doctorsに
選出されました。



血液内科 部長 内山 人二

一意専心

この度、2020年に続いて、ベストドクターズの1人として選出されました。ベストドクターは、ベストドクターズ社のホームページによりますと「もし、あなたやあなたの家族が、あなたの専門分野の病気にかかった場合、どの医師に治療をお願いしますか?」という基準でアンケートを行い、専門分野の医師間のピアレビュー調査により医師を選出するもので、約30年の歴史があるとのこと。ベストドクターに推薦していただいた医師の先生方には感謝申し上げますとともに、心を新たに、その名に恥じぬよう一意専心、日々精進したいと思っております。

私が専門としています血液疾患の診断や治療は難しく、そして長期間に渡るものも多く、患者さんと一緒に治療法を考えていかないといけないことを多く経験します。また血液内科の診療は、血液内科病棟・外来、化学療法室、薬剤部、血液検査室、輸血部など院内の多くの部署とそのスタッフの力に支えられて成り立っている領域で、すべての皆様に感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。

当院血液内科は、京都府における血液疾患を診療するハイボリュームセンターであるとともに最終拠点病院として高度医療を、最適かつ迅速に提供することを目標に日々の診療にあたっております。血液内科領域は新規薬剤が次々に登場し、造血幹細胞移植などの治療技術も目まぐるしく発展しておりますので、各種ガイドラインやエビデンスに精通し、外部からの評価にも耐えうる医療を行えるように努めております。そして当院の基本理念である「地域に信頼される最高の基幹病院を目指す」、すなわち患者さまや近隣の他の医療機関から信頼されることを目標に日々研鑽していく所存ですので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

Japanese Red Cross Kyoto Daichi Hospital

Dr. Hitoshi Uchiyama



完全予約制の 導入について

地域医療支援病院としての役割を一層強化するため、
完全予約制を導入しております



当院の初診には **予約** + **紹介状** の両方が必要です



紹介元より地域連携室での予約

+



診療情報提供書

※「初診」で「紹介状をお持ちでない」患者さまには地域の医療機関での受診をご案内させていただきます。総合相談窓口にてご相談ください。

完全予約制を導入している診療科

- リウマチ内科
- 糖尿病・内分泌内科
- 血液内科
- 消化器外科
- 脳神経・脳卒中科
- 小児外科
- 心療内科
- 腎臓内科・腎不全科
- 呼吸器外科
- 歯科口腔外科
- 肝臓・膵臓外科
- 放射線治療科
- 循環器内科
- 呼吸器内科
- 眼科
- 心臓血管外科
- 整形外科
- 泌尿器科
- 脳神経外科
- 婦人科（産科は除く）
- 乳腺外科
- 消化器内科
(2023年4月より) NEW

リハビリテーション科

2名のリハビリテーション専門医を中心に、理学療法部門、作業療法部門、言語聴覚部門で協力しチーム医療を推進しています。



● 理学療法部門 (PT)

0歳から100歳まで

理学療法士 大場 寿恵

救命救急センター、総合周産期母子医療センターを備えている当院の特色に合わせて、リハビリテーションを必要とする全ての患者さまに関わっていきえるように対応しています。ICUなどいくつかの病棟に専従理学療法士を配置し、看護師とともに早期から介入しています。NICUやGCUに入院している児にもポジショニングや運動発達目的に介入しています。もちろん術後や脳卒中後の方など様々なリハビリテーションを必要とする患者さまに、リハビリロボットや歩行器、装具などを活用し治療を行っているとともに、多臓器疾患を有する超高齢の患者さまにも介入し、それぞれ0歳から100歳まで、すべての患者さまが退院後により良い生活に戻れることを目標に関わっています。

座右の銘 ケセラセラ・・・気負わず柔軟に!!



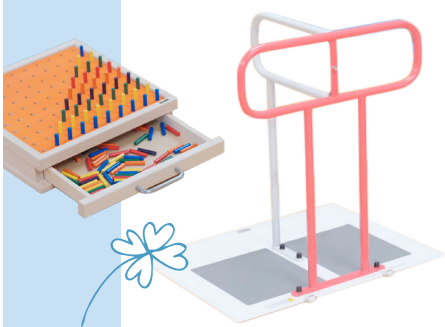
● 作業療法部門 (OT)

生活を支援する

作業療法士 松瀬 光紀

作業療法は、比較的細かな動きや身の周りの動作の獲得、社会復帰、生活復帰のお手伝いをさせて頂きます。当院においては、救急病棟などを中心に、起き上がれない、立ち上がれないなど、基本的な動作が難しいことに直面する患者さまも多くいらっしゃいます。そこで、早期から作業療法士も関わらせて頂き、基本的な動作をはじめ、身の周りの生活に必要な動作や、手の細かな動きの練習、その方に応じた活動の提供などを行います。また必要な方には手の装具の作製、自助具や福祉用具の紹介も行います。関わり全般を通して、より良い生活へ戻れるよう支援させていただいています。

私個人においては、筋トレが趣味ということもあり、力も精神も鍛えています。どんな方でも早期からリハビリテーションができるよう、自信をもって支援させていただきます。



● 言語聴覚部門 (ST)

食べる・話す・考える

言語聴覚士 中井 鈴恵

嚥下障害・失語症・構音障害・高次脳機能障害等の患者様に対して日々リハビリテーションを行っています。

嚥下障害のある患者様には、嚥下造影検査や喉頭内視鏡検査を実施し、一人一人に合った姿勢・食事内容・食べ方の指導を行っています。また、失語症と高次脳機能障害の患者様には適切な検査や評価を行い、次へ繋がれるようにアプローチをしています。さらに、パーキンソン病の患者様にはLSVT LOUDのプログラムに基づき発声・発話の改善に向けて力を入れております。

今年は1名入職し、5名になりました。増員に伴い活躍の場を拡げ、より多くの患者様に丁寧なリハビリテーションを心掛け、これからも地域の患者様に貢献できるように努めたいと思います。

座右の銘 感恩報謝・・・周りの方々の支えや恵まれた環境に日々感謝を!!



看護師紹介

こんな資格を持って看護しています

日本DMORTの理事として

一般社団法人日本DMORT(ディモート)とは、Disaster Mortuary Operational Response Teamの略で「災害死者家族支援チーム」と訳します。日本DMORTは2005年に発生したJR福知山線脱線事故の現場で遺族対応が不足していた教訓から、兵庫県内の医師らが災害直後から死亡者の家族支援を行うことを目的として創設した団体です。私は、日本DMORTの理事を務めています。これまでに熊本地震、球磨川の熊本豪雨災害、静岡県熱海市で発生した土石流災害などで警察と協働し、遺体安置所で遺族らの心身のケアに当たってきました。http://dmort.jp/

災害の種類や発生時期、発生からの経過によって、ご遺体の様相も違ってきます。私たちにできることは、かける言葉のない状況にあっても、ただただ行方不明者のご家族・ご遺族に寄り添うことだけです。また、警察の過酷な職務を理解し、チームの一員として行方不明者家族・遺族ケアを協働しています。京都府警も日本DMORTと事前の協定を締結しております。ご遺族や救援者自身が取り残されることのないように支援していきたいと思います。災害現場で、活動させていただけることを幸せに感じ、私を被災地に送り出してくれる職場のみなさまに感謝いたします。

外来師長 河野 智子



京都府警での遺族対応訓練の様子

2

DMAT隊員として

災害派遣医療チーム: Disaster Medical Assistance Teamの頭文字をとって略して「DMAT(ディーマット)」と呼ばれ、大規模災害や多傷病者が発生した事故などの現場で急性期(概ね48時間以内)から活動できる機動性を持った専門的な訓練を受けた医療チームです。構成は医師、看護師、業務調整員(医師・看護師以外の医療職及び事務職員)です。近年では、2020年の熊本県人吉市の豪雨災害、2018年大阪地震、2016年熊本地震等で当院DMAT隊が現地で活動しました。

当院は基幹災害拠点病院の役割があり、府下全域で医療救護活動の拠点となる施設です。近年起こるであろう南海トラフ地震をはじめ、有事の際はDMATだけではなく、救護班や院内の全スタッフと協働し困難を乗り越えていかなければならないと思っています。そのため自施設の中でも「顔の見える関係作り」を大事にし、多職種の方とコミュニケーションを積極的にしていきたいと思っています。

看護師 山本 圭介(写真左)

